野外教育学会「オンライン研究大会企画委員会シンポジウム」として

「新たな生活様式に向けた野外教育の実践ー苦肉の策から見いだせた光―」

学校教育における野外教育の現状と関わりにおける苦肉の策　発表概要

１　今までの学校教育での野外教育

　　　兵庫県　小学５年生　４泊５日自然学校など

　　　尼崎市立美方高原自然の家では、例年、尼崎市小学校４泊５日　３１校

２　コロナ禍の学校教育における野外教育の現状

　　　自然学校実施予定日数　兵庫県６月上旬時点　２学期以降で実施

　　　１日・・・１０市町　（尼崎市）

　　　２日・・・１０市町

　　　３日・・・１５市町

　　　４日・・・１市町

　　　５日・・・５市町

　　　未定・・・２市町

　　　　　尼崎市の経緯

４月当初４泊５日→５月末２学期以降実施と２泊３日に短縮変更→６月０泊１日短縮決定

３　学校教育への関わりの苦肉の策

　　１　施設から指導員の派遣や支援

　　　　　尼崎市教育委員会⇔尼崎市内の小学校

　　　　　　　　↕　　　　　　↑

　　　　　尼崎市立美方高原自然の家

　　　　　学校からの要望の変化（企画立案指導型→近隣の施設使用における活動サポート型）

　　　　　事前活動と事後活動のみの支援

　　２　提供プログラム例

感染レベル・活動場所にあわせた活動内容や対応の変更

身体接触をさけた課題解決プログラム構成

　　　　　　共同調理における野外炊事　個人自分の分をつくるなど⇒レトルトカレー

　　　　　事前学習１日＋０泊１日＋事後学習１日

０泊１日朝からを夜までフルに体験の提供

事前事後学習の活用（ただし時限制約　例５時間目のみなど）

苦労した点

ホームグラウンドでない場所での指導支援（下見踏査）

密にならない指導

課題

つめこみスケジュール。なるべくたくさんの活動をさせたい先生の思い

　→ふりかえり等の時間の減少（きづき　まなびの減少）